

NEWS RELEASE

NORWEGIAN CRUISE LINE
HOLDINGS LTD.

Regent
SEVEN SEAS CRUISES

OCEANIA
CRUISES

NCL NORWEGIAN
CRUISE LINE

ノルウェー・クルーズライン・ホールディングス ノルウェー・クルーズラインの日本オフィス開設

日本のクルーズマーケット拡大を目指す

2016年3月7日

ノルウェー・クルーズライン・ホールディングス（ナスダック銘柄コードNCLH）は、当社初となる日本オフィスの開設を発表しました。艦齢の若い最もコンテンポラリーなクルーズ船、他に類をみないダイニング、エンターテイメント、アクティビティを提供するブランド、ノルウェー・クルーズライン（NCL）は、フリースタイル・クルージングで知られる業界の革新的なブランドで、日本オフィスでは、NCLブランドの営業・マーケティングを専任チームで統括していきます。

また、当社はセールス・エージェンツのトラベル・アライアンス、T&T、クルーズ・コネクトをパートナーとして、アッパー・プレミアム・クラスのオーシャン・クルーズ（OCI）、オールインクルーシブのラグジュアリークラスのリージェント・セブンシーズ（RSSC）の販売拡大を目指します。

オーストラリア、シドニーに2015年11月にオープンしたアジア太平洋地区本部のトップ、クルーズ業界でその名を知られる、スティーブ・オデル（シニア・ヴァイスプレジデント兼マネージング・ダイレクター、アジア太平洋地区）は新しいセールスチームを全面的にサポートしていきます。日本人旅行者のニーズや要望を深く理解しているエキスパートのセールスチームは、フェリックス・チャン、ヴァイス・プレジデント - アジア（NCL）、川崎義則、ジェネラルマネージャー・ジャパン（NCL）、久野健吾、シニア・セールスマネージャー・ジャパン（NCL）、ウイニー・チャン、シニア・セールス・ディレクター・オブ・セールス - アジア（OCI & RSSC）で構成されます。

「本日は、日本マーケットへの新たなる進出という当社の歴史においても記念すべき日となるでしょう。東京の新オフィスの存在は、当社が日本市場を重要視している証であり、中国、香港、シンガポール、インドのオフィスと共にアジアにおける当社の存在をより強固なものしていくと確信しています。」と、NCLH インターナショナル・ビジネス開発担当、エグゼクティブ・ヴァイスプレジデントのハリー・ソマーはコメントしています。

また、同社、アジア太平洋地区、シニア・ヴァイスプレジデント兼マネージング・ディレクターのスティーブ・オデルは次のように語っています。「ノルウェー・クルーズライン・ホールディングスにとってアジアは急成長を遂げている重要なマーケットです。アジアのクルーズ人口は二桁成長で、日本とその他のアジアの国々のクルーズ旅行者の需要、さらに世界のクルーズ旅行者のアジア寄港人気も年々高まっています。この新しいセールスチームの存在は、日本の旅行業界のパートナーに向けてセールス&マーケティングのサポートを最大限に提供してまいります。また、日本人ゲストに向けてサービスの向上を図り、コンテンポラリーからラグジュアリーまで、さらにショートクルーズから世界一周クルーズまで、あらゆるクルーズ体験を求めるゲストに満足していただけるサービスを提供していきます。」

当社は現在 22 隻のクルーズ船を運航、約 45,000 のベッド数を有し、全世界 510 以上の destinations への旅程を提供しています。さらに今から 3 年以内に 3 ブランド合わせて 5 隻のクルー

ズ船を導入する予定です。さらに5億2500万ドルを投入し、客船の改装及び船内サービスの向上を図る予定です。

新造計画では、ノルウェー・クルーズラインに初めて登場するブレイクアウェイ・プラス クラス、新しいプレミアム・コンテンポラリー・クルーズセグメントの先駆けとして昨年末に就航したノルウェー・エスケープ、加えて中国専用客船のノルウェー・ジョイ、洋上最良のキュイジーヌ(The Finest Cuisine at Sea™)を提供するオーシャニア・シレーナ、そして最もラグジュアリーで最大級の広さを誇る全室バルコニー付きのオールスイートで、客船史上最も豪華な客船(the most luxurious ship ever built™)、となるリージェント・セブンシーズ・エクスプローラーの3隻が2019年までに就航する予定です

2016年3月から2017年4月までに当社では、日本の寄港地を含む45種類のアジアクルーズを提供します。日本での寄港地は、広島、石垣島、鹿児島、京都(神戸)、長崎、名古屋、沖縄(那覇)、清水、東京で、オーシャニア・クルーズの5つの旅程、リージェント・セブンシーズの6つ旅程が日本の寄港地を含みます。

ノルウェー・クルーズライン・ホールディングスの日本マーケットを支える新チームを紹介します；

スティーブ・オデル

アジア太平洋地区、シニア・ヴァイスプレジデント兼マネージング・ディレクター

アジア太平洋地区における当社のビジネス構築と拡大を統括指揮します。オデルは30年以上にわたるクルーズ業界での経験を持ち、2000年よりオーストラリアにおいてラグジュアリー・クルーズ・セグメントの会社で上席のポジションにいました。前職では、シルバーシーズの、ヨーロッパ、アジア太平洋担当の社長、及びクルーズライン・インターナショナル・アソシエーション(CLIA)のトップを務めました。

フェリックス・チャン

ノルウェー・クルーズライン、アジア担当セールス、ヴァイス・プレジデント

東京と大阪での4年を含め、アジアで10年以上の旅行業界での営業の経験があります。チャンは香港ディズニーランドでの旅行業界担当セールスディレクターを経て、2015年11月に現職に就きました。日本語が堪能。

川崎義則

ノルウェー・クルーズライン、日本担当ジェネラルマネージャー

川崎は、旅行業界及びクルーズ業界での30年に渡る経験を持ちます。クオーニ・トラベルのセールス&オペレーション部門、MSCクルーズ・ジャパンでの8年に渡るセールスマネージャーの経験を経て、2016年2月にNCLHに入社しました。

久野健吾

ノルウェー・クルーズライン、日本担当シニア・セールスマネージャー

オーバーシーズ・トラベル・エージェンシーのクルーズ部門支配人、カーニバル・クルーズラインのインターナショナル・パーサーなど15年以上のクルーズ業界の経験があります。

ウイニー・チャン

オーシャニア・クルーズ&リージェント・セブンシーズ、アジア担当シニア・ディレクター・オブ・セールス

2015年8月にNCLHに入社。海洋クルーズ、リバークルーズ、プライベートジェット、スペースシップなどラグジュアリー・トラベルに特化した10年に及ぶ旅行業界での豊富な経験があります。

ノルウェー・クルーズライン・ホールディングスに関して

ノルウェー・クルーズライン・ホールディングス・リミテッド (NCLH) は、世界有数のクルーズ会社で、ノルウェー・クルーズライン、オーシャニア・クルーズ、リージェント・セブンシーズ・クルーズの3ブランドを擁します。当社全体でトータル22隻45000ベッド数を有し、全世界510のデスティネーションへの旅程を提供しています。2019年までに当社は新たに5隻のクルーズ船を導入する予定です。

ノルウェー・クルーズラインは伝統的なクルーズのスタイルを打ち破り「フリースタイル・クルージング」を取り入れた先駆者で、クルーズ業界に革命をもたらしました。ノルウェー・クルーズラインはプール、レストラン、コンシェルジュサービス、バトラー付きのスイートルームで構成される最上階のプライベートスペース「The Haven」もご用意。オーシャニア・クルーズは、世界中の魅力的なデスティネーションをカバーし、最高級の食事が人気です。リージェント・セブンシーズ・クルーズは、フリードリンク、寄港地観光、チップなど全てを含む完全オールインクルーシブのウルトラ・ラグジュアリー・クルーズラインで、全室バルコニー付きスイートとパーソナルサービスを提供します。

このプレスリリースに関するお問い合わせは下記までどうぞ:

[ケントス・ネットワーク 担当: 小原由起子](#)

Email: yukiobara3@kentosnetwork.co.jp phone: 03-3403-5328

Dorothy Mak – Vice President, Marketing Asia for Norwegian Cruise Line Holdings

Email: asia.pr@nclcorp.com phone: +852-3750-7951